

輝け！ 我ら錦城星☆

明日錦城祭開幕！！



題字 井口 文章
再刊 第492号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：錦城祭前日！ 企画団体の準備の様子
実行委員長インタビュー
明日から盛り上がりだ！
二面：総文特集2 総文祭の様子をお見せします

「ぜひ来てね！」 企画準備が進められる

明日13日から錦城祭が開催される。今号では夏休みから行われている企画団体による準備の様子と、陰ながら錦城祭を支え続ける実行委員長らの声をお届けする。明日からの錦城祭を全力で盛り上げよう！ (編集部共同取材)

「ベイマックスに注目」1J
1年J組の企画は、デイズニールにあるコーヒーカープをモチーフにしたアトラクションをモデルにした「Jマックスのハッピーライド」。クラス企画係代表の石井裕那さんに話を聞いた。カップを制作するグループ、カップの中を制作するグループ、内装外装をつくるグループに分かれて活動している。取材に1Jを訪れた時は、カップを作るために木材にやすりをかけたり、木材と木材をくっつけたりしていたが、まだやるべき作業がたくさん残っているという。「正直ピンチです！」と話してくれた。1番の見どころは、外観のベイマックスで、1Jの集大成だそう。「みんなで楽しみたい！」と笑顔を見せた。



木材と木材を電動ドリルでくっつけるクラスメイトを全力応援

「カジノに遊びに来よう」1M

1年M組の企画は、コインを賭けてルーレットやブラックジャックなどのゲームを楽しむ「Casino Royale 13」。現在、教室を彩る準備が着々と進んでいる。入り口に置く大きなアーチは段ボールで形を作り、カラフルな装飾を加えている最中だ。準備中の生徒にインタビューすると、「入口の大きなアーチや、手作りのランプの壁飾りが見どころです！」と教えてくれた。さらに、教室全体を暗幕で覆い、光を落とすことで本物のカジノさながらの雰囲気を出す予定だという。「お客さんにここだけの非日常感を感じてもらいたい」と笑顔を見せた。

「新しい8番出口の形」2D



出入り口のアーチを製作

2年D組の企画は、映画にもなったゲームを基にした企画「八番出口」。異変を作るグループと外装を作るグループに分かれて準備をしている。和気あいあいとした雰囲気、活気のある様子が伺えた。企画準備をしていた塩野三希さんは、「ゲームと同じ、異変が8個という設定を崩したくなかった」とこだわりを話した。それを実現するために用意した3コースで合計8個の異変が見つけられるシステムになっているそうだ。大変な点は準備にあまり人が集まらなかったことだと言っている。できる人が作業してくれ

錦城祭を陰で支えるチーフに取材 「みんなに喜んでもらえるものに」

思い出になるものに！ スタンプラリー

今年も錦城祭に行われるスタンプラリー。「錦城祭に来た記念として思い出になるものにしたい」と話すのはチーフの小松素玲さん(2C)。例年のスタンプラリーの景品はリストバンドなどが多かったが、今年は「実用性のあるものにしたい」「みんなに喜んでもらえるものにしたい」という想いと予算面から考えてクリアファイルと巾着を採用したそう。景品の企画は、景品を決める→デザインを考える→美術部にデザインを描いてもらう→企業に発注する、の流れで進んでいくと説明する小松さん。その中で最も大変だったのは、データを頼んだ時に企業側との意思疎通が上手くいかなかったことだと胸の内を語った。小松さんは「1人でも多くの人にスタンプラリーをしてほしいです」と思いを話してくれた。ぜひ錦城祭ではスタンプラリーを回って思い出作りの一環にしてほしい。



ぜひゲットしよう！
(毎)

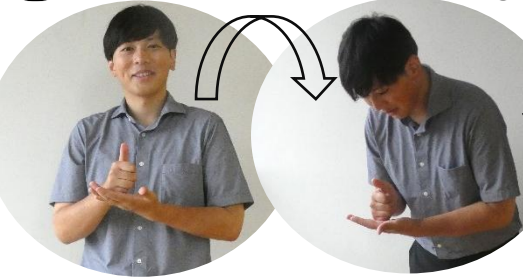
多くの人に届け！ パンフレット

パンフレットチーフである佐藤さよさん(2J)に話を聞いた。今年はパンフレットのページ数を減らして1冊当たりのコストを減らすことで、部数を増やし、より多くの人の手に渡るようにパンフレットを変えたそうで、「途中で昨年はパンフレットが余ったことを知ったのですが、ページ数を減らすことでより読みやすくなるというメリットもあり、今年は昨年に比べてページ数が減っています」と説明してくれた。しかし今年は減ったばかりではなく、キッチンカーの説明が載ったページが増えたりもする。パソコンの打ち込み作業が大変だったと笑いながら話す佐藤さん。「色んな人に読んでもらえたら嬉しいです」と話してくれた。



力作のパンフレット

手話を覚えよう！③



11月に東京でデフリンピックが開催されるのに関連して、編集部ではデフリンピック特集を企画している。連載企画として、先生方に簡単な手話を実演していただいた。みんなで手話を覚えてみよう！

言葉が聞こえずとも人と繋がることは素晴らしいことです。ぜひみなさんも手話を学んでみましょう！実際に手話ができて楽しかったです。(門前先生)

今回、手話を実演してくださったのは、英語科の門前和紀先生。第3弾で紹介するのは「いらっやいませ」という意味の手話。前に出した手のひらに、もう片方の手で親指を立てて乗せる。そして乗せた方の手を手前に引きながらお辞儀をするという動作だ。機会があれば錦城祭でぜひ使ってみよう！

みんなが楽しめる錦城祭・後夜祭に

文化祭・後夜祭実行委員長インタビュー

文化祭 飲食企画増加！

錦城祭実行委員長の黒崎大季さん(2I)は錦城祭が迫る取材日当日、「仕事が大変です」と話し始めた。特にオーブニングセレモニーが難航しているという。

黒崎さんによると、今年の錦城祭では昨年より生徒によ

後夜祭 花火が本格化

後夜祭実行委員長の山田理穂さん(2I)は「心配半分、期待半分です」と心境を話した。昨年は先生たちによって行われた花火は、今年は業者によって行われるという。「グラウンドの外や新校舎な



後夜祭実行委員長

好きな場所、お好きに見られます」と話してくれた。昨年は足りなかったペンライトを今年は300本ほど増や

し、1000本以上を用意しているという山田さん。それでも足りるかならないの、持っている人はぜひマイペンライトを持ってくるようにお願いしている。また、今年はスケジュールがタイトなため、開演の4時半までに体育館に来てほしいとも話す。「錦城祭でお客さんを楽しませる側だった錦城生に後夜祭では楽しめる側になってもらいたい。一緒に楽しみたい」と笑顔を見せた。

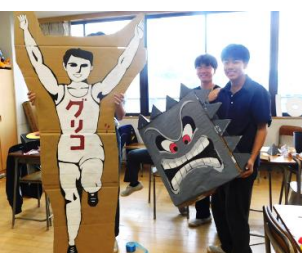
「4倍楽しめよう！」1D
1年D組の企画は、「☆縁日 一番星☆」。ここでは輪投げ、射的、ヨーヨー釣り、くじ引きの4つを行う。輪投げを担当している生徒によると、段ボールで坂を作り立体的になるようにしているそう。また、動く



ダンボールを切り取って

「と話した。でも、クラスのみんなもそれを分かっている限り協力しようとしてくれるので、仕掛けがいろいろあって原作と違うところもある」と話し、錦城生に「新しい形の8番出口を見つけてもらえたら嬉しいですよ」とメッセージを送った。

「ボム兵も待つよ」3K



大阪感あふれる装飾に

3年K組の企画は、「K組カ1ト事故多発中!!」。K組はJ組、L組と合同で大阪の街をイメージした企画を行う。その中でもK組はマリオカードを参考にしたアトラクションを担当している。そんなクラスの現在の進捗状況をクラス企画係代表の引地悠梧さんに伺った。取材日は丁度、

「と話した。でも、クラスのみんなもそれを分かっている限り協力しようとしてくれるので、仕掛けがいろいろあって原作と違うところもある」と話し、錦城生に「新しい形の8番出口を見つけてもらえたら嬉しいですよ」とメッセージを送った。

むらさき草

編集部の部屋の棚には、過去の錦城高校新聞のアーカイブがある。先日、前から気になっていた古い記事がまためられていた。それは、1990年の紙面。当時は湾岸戦争がおき、今では教科書に載っているような人物の名前とともに、当時の錦城生の意見が掲載されていた。レイアウトや書き方は今と全く違うが、当時の書き手の「仮定の大戦(第三次世界大戦)を起さないとしよう」という思いはしっかりと伝わってきた。過去の錦城生の思いが伝わってくる記事を読む、という体験は中々に新鮮だった。『チ。ー地球の運動について』(魚豊 小学館)の作中に「文字は、まるで奇跡です」というセリフがある。創刊号から考えると、60年も前の記事から当時の書き手の思いが伝わってきたのは、まさに「奇跡」だった。最近国語の授業で読んだ話では、言葉は「とても、危なっかしい道具」と述べられていた。言葉にする前の思いは自分たちの中にだけ存在していて、言葉によって今までの形がなかった思いが既存の型に押し込められてしまうという。確かに、言葉を使っている表現するとき、しっかりと伝わりたくないこともあるし、誤解されてしまうこともある。そしてそれはどだけだけ文章を書く技術を向上させたとしても起こりうるだろう。それでも私は記事を書き続けたい。あのとき読んだ過去の記事からは、当時の先輩の「思い」が伝わってきた。どれだけ下手な文章であっても、先輩と同じように今の自分たちの思いを残そうとすることは無駄な事ではないと思う。自分の記事を読んでもくれる人に、どれだけ時間が経っても面白いと思ってもらえる記事を書いていきたい。

注目してほしい。

